

# 収入向上・女性の自立

## 織手の生活保障とメガネ支援 — 高品質ナバルタビ生産に向けて —

これまでナバルタビは、注文時や製品引き取りの際に代金を支払っていました。しかし織手5人が月曜から金曜日まで織の家で製作に専念できるように最低限の保障として、3,500 ペソ(お米 100kg5人分)と1,500 ペソ(アバカ購入費)を支払う(それぞれ月当たり)方式に変更しました。現在の帯地幅ナバルタビの仕入れ価格ですと、月1本需要があれば賄うことができます。現在、和裁をなさる方や茶道のお稽古に着物を着られる方などから帯地の注文を受けており、2本製作中です。

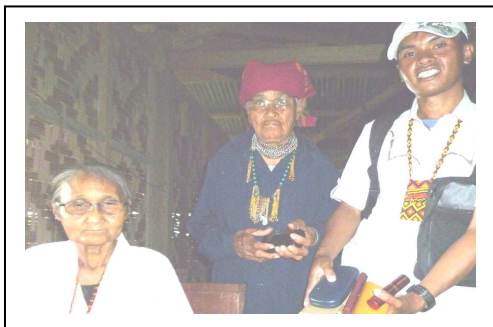


軽くて締めやすいと好評の



ラミナさんの織

熟練織手が数人しかいない現状から、後継者育成も急がれますが、ティナラク織の COWHED のように組織化が進んでいないため、研修等の企画には時間が必要です。



前号でお願いしました老眼鏡は、合計 13 点ご寄贈いただき、6月12日に織の家を訪ねた折にお届けしました。昼食時間で家に戻っている織手もいましたが、写真のお二人はいろいろ試してみてもピッタリのものが見つかったようで大変喜んでくれました。よく見えるようになって、より精緻な織に期待したいと思います。



ご協力ありがとうございました！

## マイクロファイナンス現況報告 — COWHED マネージャー/ジェマ・ガロール

5月にパイロット期間が終了し、ILOによる査察・評価が行われています。まだその報告は届いていませんが、以下は ILO に宛ててジェマさんが作成した中間報告(2009年11月-2010年3月)の抄訳です。

・ ・ ・ ・ ・

2009年12月18日に、テストケースとして COWHED メンバー8名、メンバー外2名(乗合バイク業者)に各5,000ペソを貸し付けました。この10名については月2回、ローン担当者が COWHED 理事の案内で事業内容のチェックをして回りました。同時に新規借手や COWHED 加入希望者を対象にセミナーを実施しました。

一方で COWHED スタッフや組合員対象に研修講師養成のためのセミナーが合計3回実施されました。その後、受講した私たちが講師となり、組合員147名中90名が参加して企業経営研修をしました。参加者はビジネスプランや現金流入出表を完成させました。

ILOからの資金は、合計141万ペソを3回に分けて受領しました。貸付金の返済も1-3月までの3カ月で38万ペソになりました。

最初の10名を手始めに、これまでに8回(うち3回は返済完了者対象)資金の貸し付けを実施し、3月末までの貸付額累計は175万ペソになります。

借り手の84%はティボリ民族で、16%は入植者です。返済状況は、元利を返済したものが233人中85%、利子のみ返済5%、返済が遅れているケースは10%で督促をしています。 以上

\* なお6月に届いたメールには、新学期で返済の遅れが目立つ、督促業務に忙しいとありました。6月は入学金、制服代など出費が多い時です \*



左からジェマさん、マイダさん、ネニータさん